

ISL Conference Proxy

アップグレード&移行マニュアル



目次

1	ISL Online オンプレミスライセンスについて	3
2	ISL Conference Proxy のバックアップ	4
3	ISL Conference Proxy の移行	5
4	ISL Conference Proxy のアップグレード	11
4.1	はじめに	11
4.2	アップグレードに必要なファイル	12
4.3	アップグレード手順	13
4.4	ライセンスファイル適用について	16
4.5	Manual Update について	17
5	ISL Conference Proxy の復旧	23
6	ISL Conference Proxy のアンインストール	24
7	ISL Conference Proxy のエラーメッセージ	25

本マニュアルについて

本マニュアルでは、オンプレミスライセンス（ISL Conference Proxy）を既にご利用中のユーザー様向けに以下の手順をご案内しております。

		ISL Conference Proxyのバージョン	
		維持する	最新版にアップグレード
サーバー	移行しない	-	「アップグレード」
	移行する	「移行」	「移行」+「アップグレード」

- ・ ISL Conference Proxy の「バックアップ」手順（4 ページから）
- ・ ISL Conference Proxy を別のサーバーにインストールする「移行」の手順（5 ページから）
- ・ ISL Conference Proxy を最新バージョンに「アップグレード」する手順（11 ページから）

【注意】

- ・ ISL Conference Proxy の移行およびアップグレードは、必ずバックアップを取った上で行ってください。
- ・ ISL Conference Proxy の「移行」と「アップグレード」の両方を実施する場合は、現在ご利用中の ISL Conference Proxy を新しいサーバーへ移行した後にアップグレードを実行してください。移行後は早めにアップグレードしてください。
- ・ ISL Conference Proxy を新規に構築する手順は、『ISL Conference Proxy 新規セットアップマニュアル』をご参照ください。
- ・ 常駐接続（ISL AlwaysOn）のクライアントのバージョンアップ手順は、『常駐接続（ISL AlwaysOn）大量導入&アップグレードマニュアル』をご参照ください。

1 ISL Online オンプレミスライセンスについて

ISL Conference Proxy 4.4.1734 のインストールに必要なシステム構成

●オペレーティングシステム

Windows Server 2008 R2 SP1 / 2012 / 2012 R2 / 2016 64bit

※ 以下の仮想化環境でもご利用いただけます。

- ・ Hyper-V 2.0 上で動作するゲスト OS
- ・ Hyper-V Server 2012、Hyper-V Server 2012 R2 上で動作するゲスト OS
- ・ Hyper-V Server 2016 上で動作するゲスト OS
- ・ VMware ESXi 5.5、VMware ESXi 6.0 上で動作するゲスト OS

●マシンスペック（最小構成）

- ・ CPU : 2GHz 以上、メモリ : 4GB 以上、HDD : 10GB 以上の空き容量
- ・ 専用のハードウェアをご用意いただくことを推奨しています。

※同時接続数および常駐モジュール（ISL AlwaysOn）の台数に応じたハードウェアの要件は、以下製品 Web ページをご参照ください。

▼ISL Online 動作環境（サーバー）

<http://www.islonline.jp/features/requirements.html>

●通信環境

- ・ 最低速度：256Kbps (DSL) 以上
- ・ 通信ポート（初期値）：内向き TCP ポート 7615、443、80（任意のポートに変更可能）

ISL Conference Proxy 各バージョンのインストーラーとモジュール関連 ZIP

ISL Conference Proxy 各バージョンの構築に必要なファイル（インストーラーとモジュール関連 ZIP）は、以下の FAQ ページからダウンロードしてください。

▼古いバージョンの ISL Conference Proxy のプログラムファイルの入手方法を教えてください

http://www.islonline.jp/help/faq_on-premise.html#onp10

その他

ISL Conference Proxy をインストールするサーバーで F-Secure アンチウイルスが稼働している場合、以下の設定を行う必要がございます。

- ・リアルタイムスキャンのスキャン対象から、以下のフォルダ（ISL Conference Proxy のインストールフォルダ）を除外してください。

C:\Program Files\ISL Conference Proxy

- ・ディープガードのスキャン対象から以下のアプリケーションを除外してください。

C:\Program Files\ISL Conference Proxy\confproxy_server.exe

C:\Program Files\ISL Conference Proxy\pg_tool.exe

C:\Program Files\ISL Conference Proxy\postgresql_bin\bin\pg_ctl.exe

C:\Program Files\ISL Conference Proxy\postgresql_bin\bin\initdb.exe

C:\Program Files\ISL Conference Proxy\postgresql_bin\bin\postgres.exe

2 ISL Conference Proxy のバックアップ

移行またはアップグレードを行う前に、必ずバックアップを行ってください。

（ISL Conference Proxy のインストールフォルダを、別の場所にコピー・保存してバックアップを行います）

[手順]

1. ISL Conference Proxy のサービスを停止します。

Windows のスタートメニューから[コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス]を選択して、[ISL Conference Proxy]を停止します。

[ISL Conference Proxy]以外のサービスは停止しないでください。

2. ISL Conference Proxy のインストールフォルダ内にある全てのフォルダおよびファイルをコピーしてバックアップを取ります。

インストールフォルダの初期値は以下の通りです。

C:\Program Files\ISL Conference Proxy ※

※64bitOS で、32bit 用プログラムを使用している場合のインストールフォルダは「**C:\Program Files (x86)\ISL Conference Proxy**」となります。

3. ISL Conference Proxy の使用を再開する場合は、サービスを開始します。

3 ISL Conference Proxy の移行

ISL Conference Proxy を別のサーバーで使用する場合は、以下の手順に従って移行してください。

ISL Light、ISL AlwaysOn および ISL Groop は、ダウンロードやインストールを行った際の「IP アドレスまたは DNS 名（以下、アドレス）」に対して接続を行うため、移行前のサーバーのアドレスが移行後と異なる場合は以下の点にご注意ください。

- (ア) 移行後に ISL Light または ISL Groop を使用する際は、移行後のサーバーのオンラインページから取得したプログラムを使用すること
- (イ) 移行後に ISL AlwaysOn を使用する際は、ISL AlwaysOn のアンインストールおよびレジストリ情報の削除を行った後に、移行後のサーバーのオンラインページから、再度 ISL AlwaysOn のインストールを行う必要があること
(※ 各端末に既にインストールされた ISL AlwaysOn の設定をそのまま使用したい場合は、移行後のサーバーの IP アドレスを現行のサーバーと同一にしてください)
- (ウ) 移行前と移行後のサーバーの IP アドレスが異なる場合は、以下の手順 1~6 に従ってライセンスファイルを取得してください。

1. ISL Online の製品トップページ (<http://www.islonline.jp/>) 右上の [ログイン] ボタンをクリックしてログイン後、右上のログイン名をクリックして [オンプレミスライセンス] を選択します。

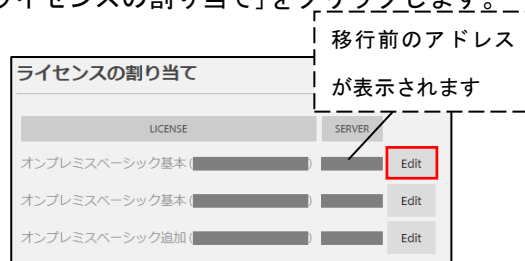


2. [サーバーの追加] をクリックし、移行後の IP アドレスを入力して [保存] します。

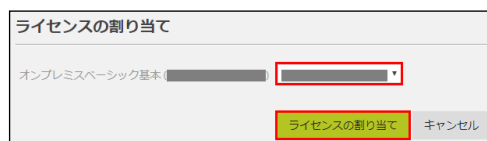
3. 2 で入力した移行後の IP アドレス欄の、[ライセンスの割り当て] をクリックします。

4. [Edit] をクリックします。

5. 2 で設定したアドレスを選択していることを確認し、[ライセンスの割り当て] をクリックします（複数のライセンスを割り当てる場合は、再度 4 と 5 を行います）。



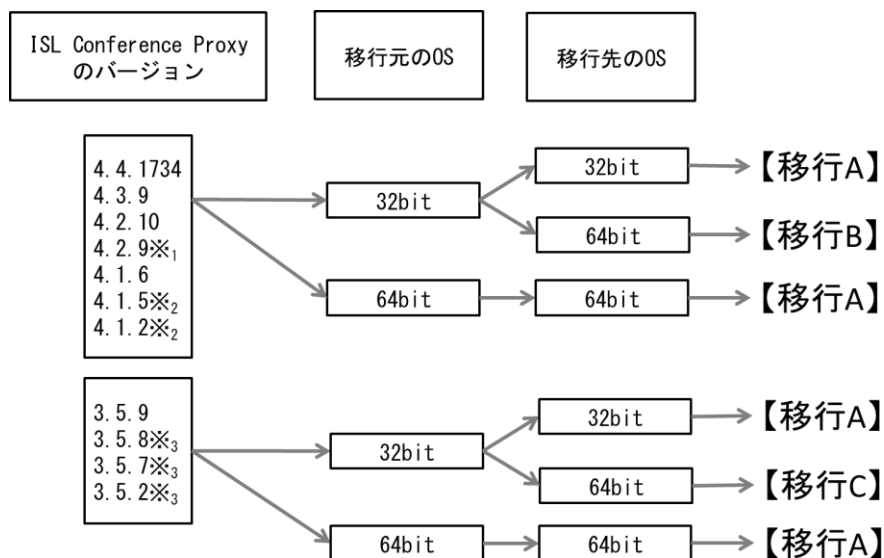
6. 「パケットの作成」をクリックします。



7. 「サーバー」に1で入力した IP アドレスが表示されていることを確認し、[作成] をクリックします。「バージョン」は移行する ISL Conference Proxy のバージョンを選択します。
8. 作成すると、ライセンスファイル (confproxy-X-X.license) のリンクが表示されます。作成されたパケットの[confproxy-X-X.license]をクリックして、ライセンスファイルのダウンロードを行います。
9. 移行先の端末で ISL Conference Proxy のインストールが完了したら、ダウンロードしたライセンスファイルの適用を行います。

移行手順

下図フローチャートにしたがって、該当する【移行 A】～【移行 C】の手順をご参照ください。いずれにも当てはまらない場合は、弊社サポート窓口までご相談ください。



- ※₁ 2016年10月12日にリリースした OpenSSL の脆弱性に対応した『ISL Conference Proxy 4.2.10』のプログラムを使用してください。
- ※₂ 2016年10月12日にリリースした OpenSSL の脆弱性に対応した『ISL Conference Proxy 4.1.6』のプログラムを使用してください。
- ※₃ 2016年10月25日にリリースした OpenSSL の脆弱性に対応した『ISL Conference Proxy 3.5.9』のプログラムを使用してください。

OpenSSL の脆弱性対応についての詳細は、以下の URL をご参照ください。

▼OpenSSL の脆弱性に関する対応について

<http://www.islonline.jp/help/openssl.html>

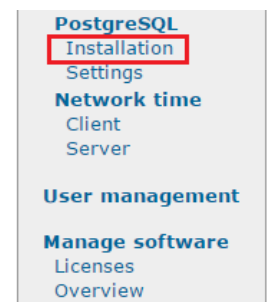
【移行 A】 の場合の手順は以下の通りです。

1. 【移行元の端末で行ってください】
ISL Conference Proxy のサービスを停止します。
Windows のスタートメニューから [コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス] を選択して、[ISL Conference Proxy] を停止します。
[ISL Conference Proxy] 以外のサービスは停止しないでください。
2. ISL Conference Proxy のインストールフォルダー「C:\Program Files\ISL Conference Proxy」または「C:\Program Files (x86)\ISL Conference Proxy」をコピーします。
3. 【移行先の端末で行ってください】
上記で取得した ISL Conference Proxy のインストールフォルダを「C:\Program Files\」にコピーします。
4. サーバーの管理者権限を持つ Windows アカウントで、ISL Conference Proxy のインストーラーを実行します。(3 ページ「ISL Conference Proxy 各バージョンのインストーラーとモジュール関連 ZIP」を参照して対応するインストーラーを取得します。64bitOS では、64bit 用のインストーラーを使用してください)
5. インストールウィザードに従って、インストールを進めます。
6. インストールが完了すると、ブラウザ上で ISL Conference Proxy の管理画面 (ISL Conference Proxy administration) が自動的に開きます。※
※管理画面が自動で開かない場合は、Windows のスタートメニューから [ISL Conference Proxy]-[Web administration] をクリックするか、ブラウザで「http://localhost:7615/conf」と入力して開くことができます。(7615 部分は利用中のポート番号です)
7. 管理画面にログインできることを確認します。(初期値の [Username] は「admin」、[Password] は「asd」です。移行前に変更している場合は、変更が引き継がれます)
8. 製品が利用できることを確認します。

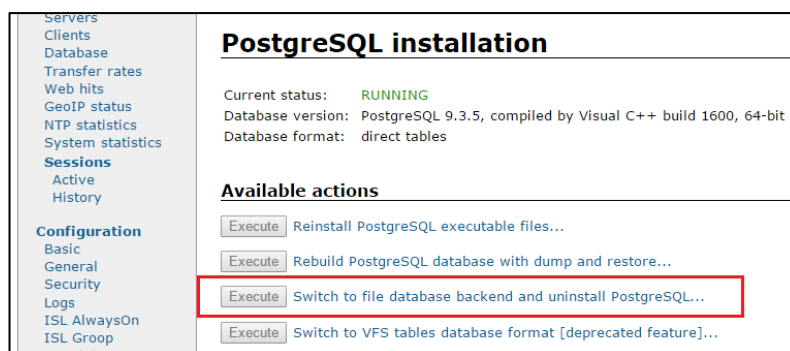
【移行 B】 の場合の手順は以下の通りです。

1. 【移行元の端末で行ってください】

ISL Conference Proxy の管理画面（ISL Conference Proxy administration）を開き、[PostgreSQL]-[Installation] を選択し、[PostgreSQL installation] のページを開きます。



2. [PostgreSQL installation] のページの [Available actions] の項目から [Switch to file database backend and uninstall PostgreSQL...] の文字をクリックし、[Execute] ボタンを有効化し、[Execute] ボタンをクリックします。



※PostgreSQL に格納されているデータを移行に必要なデータ構造へ戻す作業のため、格納されているデータ量によって時間がかかる場合があります。

3. 手順. 2 が終了した後、PostgreSQL がアンインストールされたことを確認します。



4. ISL Conference Proxy のサービスを停止します。

Windows のスタートメニューから [コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス] を選択して [ISL Conference Proxy] を停止します。

[ISL Conference Proxy] 以外のサービスは停止しないでください。

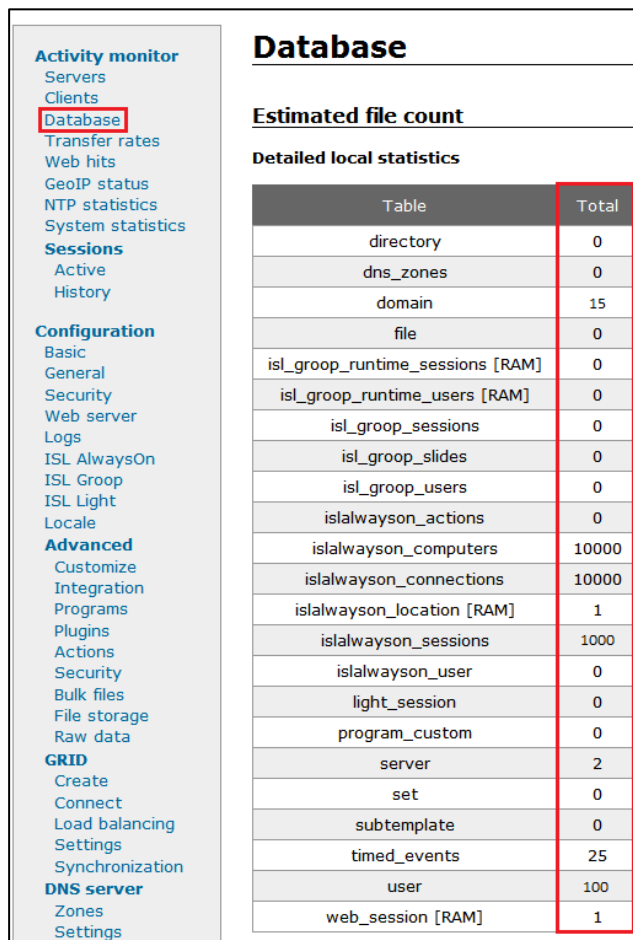
5. ISL Conference Proxy のインストールフォルダ「C:\Program Files\ISL Conference Proxy」と C ドライブ直下にある「C:\ISL_Online_software_repository」をコピーします。
(「ISL_Online_software_repository」がない場合は 3 ページ「ISL Conference Proxy 各バージョンのインストーラーとモジュール関連 ZIP」を参照し、対応するバージョンのモジュール関連 ZIP をダウンロードして解凍します)
6. 【移行先の端末で行ってください】
上記で取得した ISL Conference Proxy のインストールフォルダーを「C:\Program Files」にコピーします。「ISL_Online_software_repository」を C ドライブ直下にコピーします。
7. 上記でコピーした ISL Conference Proxy のインストールフォルダ内にある以下のフォルダを削除します。
 - ・「C:\Program Files\ISL Conference Proxy\module_postgresql」
 - ・「C:\Program Files\ISL Conference Proxy\postgresql_bin」
 - ・「C:\Program Files\ISL Conference Proxy\postgresql_data」
8. サーバーの管理者権限を持つ Windows アカウントで ISL Conference Proxy のインストーラーを実行します。(3 ページ「ISL Conference Proxy 各バージョンのインストーラーとモジュール関連 ZIP」を参照して、対応するインストーラーを取得します。64bit 用のインストーラーを使用します)
9. 表示されるインストールウィザードに従って、インストールを進めます。
10. インストールが完了すると、ブラウザ上で ISL Conference Proxy の管理画面 (ISL Conference Proxy administration) が自動的に開きます。(管理画面が開くまで時間がかかる場合があります)
※管理画面が自動で開かない場合は、Windows のスタートメニューから [ISL Conference Proxy]-[Web administration] をクリックするか、ブラウザで「http://localhost:7615/conf」と入力して開くことができます。(7615 部分は利用中のポート番号です)
11. 管理画面にログインできることを確認します。(初期値の [Username] は「admin」、[Password] は「asd」です。移行前に変更している場合は、変更が引き継がれます)
12. [Manual Update] を実行します。
(「4.5 Manual Update について (P.17)」をご参照ください。併せて PostgreSQL のインストールも行ってください)
13. 製品が利用できることを確認します。

【移行 C】 の場合の手順は以下の通りです。

1. 【移行元の端末で行ってください】
ISL Conference Proxy のサービスを停止します。
Windows のスタートメニューから [コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス] を選択して、[ISL Conference Proxy] を停止します。
2. ISL Conference Proxy のインストールフォルダ「C:\Program Files\ISL Conference Proxy」と C ドライブ直下にある「C:\ISL_Online_software_repository」をコピーします。
(「ISL_Online_software_repository」がない場合は 3 ページ「ISL Conference Proxy 各バージョンのインストーラーとモジュール関連 ZIP」を参照し、対応するバージョンのモジュール関連 ZIP をダウンロードして解凍します)
3. 【移行先の端末で行ってください】
上記でコピーした ISL Conference Proxy のインストールフォルダーを「C:\Program Files」にコピーします。「ISL_Online_software_repository」を C ドライブ直下にコピーします。
4. サーバーの管理者権限を持つ Windows アカウントで ISL Conference Proxy のインストーラーを実行します。(3 ページ「ISL Conference Proxy 各バージョンのインストーラーとモジュール関連 ZIP」を参照して対応するインストーラーを取得します。64bit 用のインストーラーを使用してください)
5. 表示されるインストールウィザードに従って、インストールを進めます。
6. インストールが完了すると、ブラウザ上で ISL Conference Proxy の管理画面 (ISL Conference Proxy administration) が自動的に開きます。
※管理画面が自動で開かない場合は、Windows のスタートメニューから [ISL Conference Proxy]-[Web administration] をクリックするか、ブラウザで「http://localhost:7615/conf」と入力して開くことができます。(7615 部分は利用中のポート番号です)
7. 管理画面にログインできることを確認します。(初期値の [Username] は「admin」、[Password] は「asd」です。移行前に変更している場合は、変更が引き継がれます)
8. [Manual Update] を実行します。
(「4.5 Manual Update について (P. 17)」をご参照ください)
9. 製品が利用できることを確認します。

4 ISL Conference Proxy のアップグレード

4.1 はじめに



Database	
Estimated file count	
Detailed local statistics	
Table	Total
directory	0
dns_zones	0
domain	15
file	0
isl_groop_runtime_sessions [RAM]	0
isl_groop_runtime_users [RAM]	0
isl_groop_sessions	0
isl_groop_slides	0
isl_groop_users	0
islatwayson_actions	0
islatwayson_computers	10000
islatwayson_connections	10000
islatwayson_location [RAM]	1
islatwayson_sessions	1000
islatwayson_user	0
light_session	0
program_custom	0
server	2
set	0
subtemplate	0
timed_events	25
user	100
web_session [RAM]	1

バージョン 3.5.2 未満の ISL Conference Proxy から最新版 (4.4.1734) へのアップグレードはサポート対象外となっています。実施前に弊社サポート窓口までご相談ください。

バージョン 3.5.9 以前の ISL Conference Proxy から最新版 (4.4.1734) へのアップグレードでは、ISL Conference Proxy のアップグレード後に既存のデータベースを PostgreSQL に移行するため、時間がかかる場合があります。PostgreSQL 移行の推定時間は画面上部に表示されます。(バージョン 4.1.2 以降の ISL Conference Proxy から最新版 (4.4.1734) へのアップグレードでは、PostgreSQL への移行は行われません)

この PostgreSQL 移行の推定時間の概算方法は、「PostgreSQL のインストール時間 (15 分程度) + データ移行時間 (10 万~100 万オブジェクトあたり 1 時間)」となっています。

データベースの持つオブジェクト数の確認は [Activity monitor]-[Database] から確認できます。(上の画像のオブジェクト数は約 2 万です。オブジェクト数が 10 万を超える場合、PostgreSQL への移行に 1 時間程度かかると想定されます)

アップグレードの状況は、インストールフォルダ内の Confproxy_server.log を開いて確認できます。Confproxy_server.log の中に “Server is fully operational” の一文が表示されません。

4.2 アップグレードに必要なファイル

最新バージョンである ISL Conference Proxy 4.4.1734 へのアップグレードを行う際は、以下のファイルが必要です。

- ISL Conference Proxy 4.4.1734 用インストーラー

※【upgrade B】(P.13 図 参照)の対象となる場合

- モジュール関連 ZIP

<http://www.oceanbridge.jp/isl/cp/441734/software.zip>

- ライセンスファイル (パケット) : 「confproxy-4-4.license」

お手元に既にご利用中の「confproxy-4-4.license」がある場合は、そちらをご利用ください。また、ご利用中のライセンスファイルが「confproxy-4-3.license」など数字部分が「4-4」未満の場合は新たにライセンスファイルを作成する必要があります。手順は以下の通りです。

ライセンスファイルの作成

1. ISL Online の製品トップページ (<http://www.islonline.jp/>) 右上の「ログイン」ボタンをクリックして、オンラインページにログインします。
2. 右上のログイン名をクリックして、「オンプレミスライセンス」を選択します。



3. 「サーバー」タブ内の [パケットの作成] ボタンをクリックします。
4. パケットを作成するサーバーのアドレスを確認後、「作成」ボタンをクリックします。
「保守期限」に表示される期限が新しい保守期限であることを確認し、ライセンスファイル「confproxy-4-4.license」をクリックして保存します。

※作成日・保守期限はヨーロッパ方式「dd.mm.yyyy」で表示されます。

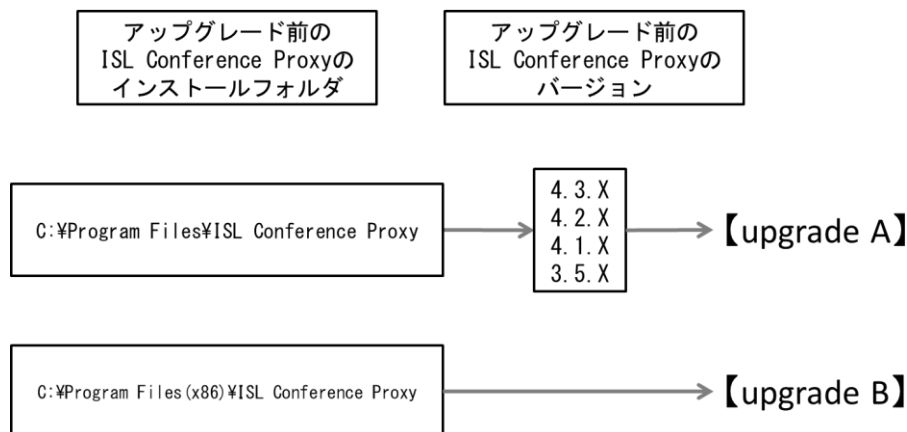
4.3 アップグレード手順

注意事項

アップグレード前のプログラムがバージョン 4.1.X 以降の場合、サービス「ISL Conference Proxy upgrade」の起動を必ず確認した上で実施してください。

以下のフローチャートにしたがって、該当する【upgrade A】～【upgrade B】の手順をご参照ください。はじめに、ISL Conference Proxy のインストールフォルダの場所を参照します。いずれにも当てはまらない場合には、弊社サポート窓口までご相談ください。

※常駐接続（ISL AlwaysOn）のクライアントのバージョンアップ手順は、『常駐接続（ISL AlwaysOn）大量導入&アップグレードマニュアル』をご参照ください。



【upgrade A】の場合の手順は以下の通りです。

1. ライセンスファイル「confproxy-4-4.license」を任意の場所に保存します。
2. 「モジュール関連 ZIP ファイル（software.zip）」を解凍して得られる、「ISL_Online_software_repository」フォルダを C ドライブ直下に保存します。
既に同名のフォルダが存在している場合は、一度削除してください。
3. ISL Conference Proxy の管理画面にログインします。（初期値の Username は「admin」、Password は「asd」です。アップグレード前に変更している場合は変更が引き継がれます）
4. ライセンスファイル「confproxy-4-4.license」の適用を行います。
5. [Restart ISL Conference Proxy]をクリックします。
6. [Manual update]を実行します。※
※ 「4.5 Manual Update について (P.17)」をご参照ください。（バージョン 3.5.9 以前の ISL Conference Proxy からアップグレードを行う際は、併せて PostgreSQL のインストールも行う必要がございます）

以上でアップグレード作業は完了です。

【upgrade B】 の場合の手順は以下の通りです。

1. ライセンスファイル「confproxy-4-4.license」を任意の場所に保存します。
2. 「モジュール関連 ZIP ファイル (software.zip)」を解凍して得られる、「ISL_Online_software_repository」フォルダを C ドライブ直下に保存します。
(既に同名のフォルダが存在している場合は、一度削除してください)
3. ISL Conference Proxy 4.4.1734 のインストーラーをダウンロードし任意の場所に保存します。
4. ISL Conference Proxy のサービスを停止します。
Windows のスタートメニューから[コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス]を選択して、[ISL Conference Proxy]を停止します。
[ISL Conference Proxy]以外のサービスは停止しないでください。
5. ISL Conference Proxy のアンインストールを行います。
[コントロールパネル]から[プログラムの追加と削除]もしくは[プログラムと機能]を開き、[ISL Conference Proxy (バージョン名)]を選択して、[アンインストール (削除)]をクリックします。
6. ISL Conference Proxy のインストールフォルダー「C:\Program Files(x86)\ISL Conference Proxy」を「C:\Program Files\ISL Conference Proxy」に移動します。
7. サーバーの管理者権限を持つ Windows アカウントで ISL Conference Proxy のインストーラー「ISL_Conference_Proxy_4_4_1721_9_win64.exe」を実行します。
8. インストールウィザードに従って、インストールを進めます。
インストールが完了すると、ブラウザ上で ISL Conference Proxy の管理画面 (ISL Conference Proxy administration) が自動的に開きます。(管理画面が開くまで時間がかかる場合があります)
※管理画面が自動で開かない場合は、Windows のスタートメニューから [ISL Conference Proxy]-[Web administration] をクリックするか、ブラウザで「http://localhost:7615/conf」と入力して開くことができます。(7615 部分は利用中のポート番号です)
9. 管理画面にログインします。(初期値の[Username]は「admin」、[Password]は「asd」です。アップグレード以前に変更を行っている場合は変更が引き継がれます)
10. ライセンスファイル「confproxy-4-4.license」の適用を行います。
11. [Restart ISL Conference Proxy]をクリックします。

12. [Manual Update]を実行します※

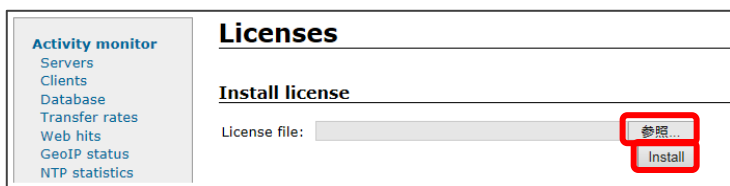
※マニュアルアップデートの詳細は、「4.5 Manual Update について (P.17)」をご参照ください。(バージョン 3.5.9 以前の ISL Conference Proxy からアップグレードを行う際は、併せて PostgreSQL のインストールも行う必要がございます)

以上でアップグレード作業は完了です。

4.4 ライセンスファイル適用について

移行前の IP アドレス（または DNS 名）が移行後と異なる場合の移行手順と、すべてのパターンのアップグレード手順に必要な、ライセンスファイルの適用の手順について説明します。各手順内でライセンスファイルの適用を行う際は、本項をご参照ください。

1. ライセンスファイル「confproxy-X-X.license」を任意の場所に保存します。
2. ISL Conference Proxy の管理画面にログインし、画面左側のメニューから [Manage software]-[Licenses] を選択します。
3. [参照] から、保存したライセンスファイルを指定して [Install] をクリックします。



4. [Restart ISL Conference Proxy] をクリックして、ISL Conference Proxy の再起動を行います。（再起動中にサーバーのシャットダウンなどを行った場合、ISL Conference Proxy が正常に動作しなくなる可能性があります）
再起動が完了すると、[Please click here to go back to the session] のリンクが表示されます。クリックすると管理画面に戻ります。（ログインページが表示された場合は再度ログインを行ってください）

以上でライセンスファイルの適用は完了です。

➡ (補足) ライセンスファイルとデジタル署名について

- ・保守サポート期間中のアカウントでライセンスファイルを作成した場合、各プログラムに ISL Online の開発元である XLAB 社のデジタル署名が付与されます。体験版の場合は、デジタル署名は付与されません。
- ・2016 年 8 月 23 日以降にライセンスファイルを作成した場合、デジタル署名を付与するコードサイン証明書有効期限は「2019 年 8 月 20 日」です。
- ・複数年保守にご加入中のユーザー様の環境では、保守期間内にデジタル署名の有効期限が切れる場合がございます。
- ・デジタル署名の有効期限後もプログラムは使用できますが、プログラムのダウンロード時や実行時に警告メッセージが表示される場合があります。
- ・デジタル署名の有効期限が切れた場合は下記 FAQ ページの【ライセンスファイルの入れ替え】を行うことで期限を更新できます。

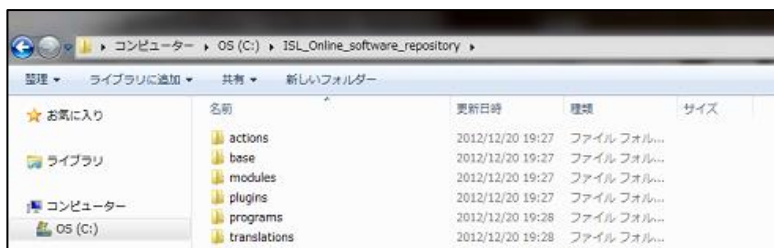
http://www.islonline.jp/help/on-premise_change.html

4.5 Manual Update について

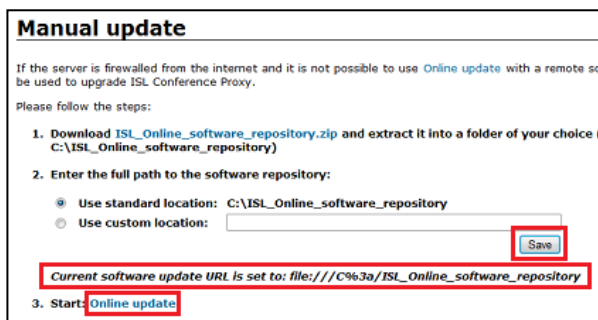
ISL Conference Proxy のセットアップ、アップグレード及びサーバーの移行において必要な Manual Update の操作方法について説明します。また、アップグレード前のバージョンや、移行するバージョンによって必要となる [PostgreSQL のインストール] についても説明します。本マニュアルの各手順内で [Manual Update] 及び [PostgreSQL のインストール] を実行する際は、本ページをご参照ください。

【事前準備】

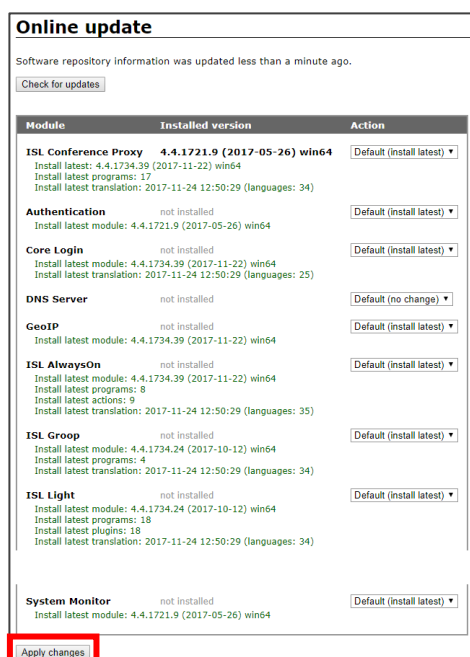
1. モジュール関連 ZIP を解凍して得られる「ISL_Online_software_repository」フォルダを C ドライブ直下に保存します。サーバーの移行を行う際は、移行元の端末の「C:\ISL_Online_software_repository」をコピーして移行先の端末の C ドライブ直下に保存します。（「ISL_Online_software_repository」がない場合は 3 ページ「ISL Conference Proxy 各バージョンのインストーラーとモジュール関連 ZIP」を参照し、対応するバージョンのモジュール関連 ZIP をダウンロードして解凍します）



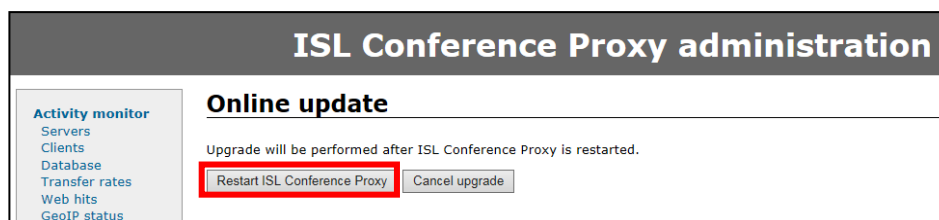
2. ISL Conference Proxy の管理画面にログインし、画面左側のメニューから [Manage Software] - [Manual Update] をクリックします。
3. [2. Enter the full path to the software repository:] の欄で、[Use standard location] が選択されていることを確認して、[Save] をクリックします。
続けて「Current software update URL is set to:」の値が「file:///C%3a/ISL_Online_software_repository」になっていることを確認し、[Online update] をクリックします。



4. [Online update]画面が開きます。画面左下の[Apply changes]をクリックすると、アップデートを開始します。グレーの画面が表示される場合は、消えるまでお待ちください。



5. アップデートが正常に終了すると、画面上部に[Restart ISL Conference Proxy]のボタンが表示されます。ボタンをクリックして ISL Conference Proxy を再起動します。



6. ISL Conference Proxy の再起動が完了するまでお待ちください。再起動中にサーバーのシャットダウンなどを行った場合、ISL Conference Proxy が正常に動作しなくなる可能性があります。

再起動が完了すると「Please click here to go back to the session」というメッセージが表示されます。メッセージをクリックすると、[Online update]の画面に戻ります。(ログインページが表示された場合は再度ログインを行ってください)

7. [Online update]画面で次の画像が表示されたらアップグレード作業は完了です。手順 4. のような緑色あるいは黄緑色のメッセージが表示されている場合は、手順 4. ~ 6. を繰り返します。

※[Upgrade to PostgreSQL]のメッセージが表示されている場合は手順 8. に進みます。

Online update

Software repository information was updated less than a minute ago.

Module	Installed version	Action
ISL Conference Proxy	4.4.1734.39 (2017-11-22) win64	Default (install latest) ▼
Authentication	4.4.1721.9 (2017-05-26) win64	Default (install latest) ▼
Core Login	4.4.1734.39 (2017-11-22) win64	Default (install latest) ▼
DNS Server	not installed	Default (no change) ▼
GeoIP	4.4.1734.39 (2017-11-22) win64	Default (install latest) ▼
ISL AlwaysOn	4.4.1734.39 (2017-11-22) win64	Default (install latest) ▼
ISL Groop	4.4.1734.24 (2017-10-12) win64	Default (install latest) ▼
ISL Light	4.4.1734.24 (2017-10-12) win64	Default (install latest) ▼
ISL PRONTO	not installed	Default (no change) ▼
Locale	4.4.1721.9 (2017-05-26) win64	Default (install latest) ▼
Network Time	4.4.1721.9 (2017-05-26) win64	Default (install latest) ▼
PostgreSQL	4.4.1734.24 (2017-10-12) win64	Default (install latest) ▼
Reports	4.4.1721.9 (2017-05-26) win64	Default (install latest) ▼
Storage	4.4.1721.30 (2017-08-22) win64	Default (install latest) ▼
System Monitor	4.4.1721.9 (2017-05-26) win64	Default (install latest) ▼

8. [Online update]画面上部に、[Upgrade to PostgreSQL]のメッセージが表示されている場合は、チェックを入れてクリックします。

ISL Conference Pro

PostgreSQL database backend is available for install. It is hig

Upgrade to PostgreSQL

9. ISL Conference Proxy の再起動が行われます。完了するまで待ちます。再起動中にサーバーのシャットダウンなどを行った場合、ISL Conference Proxy が正常に動作しなくなる可能性があります。再起動が完了すると、「Please click here to go back to the session」というメッセージが表示されます。

以上で[Manual Upgrade]作業は完了です。

(参考)

※2018年4月現在、ISL各製品のモジュール、プログラムの最新バージョンは以下の通りです

Modules (モジュール)			
Name	Platform	Version	Release date
ISL Conference Proxy	win64	4.4.1734.39	2017-11-22
PostgreSQL	win64	4.4.1734.24	2017-10-12
Storage	Win64	4.4.1721.30	2017-08-22
Reports	win64	4.4.1721.9	2017-05-26
Authentication	win64	4.4.1721.9	2017-05-26
Core Login	win64	4.4.1734.39	2017-11-22
GeoIP	win64	4.4.1734.39	2017-11-22
ISL AlwaysOn	win64	4.4.1734.39	2017-11-22
ISL Groop	win64	4.4.1734.24	2017-10-12
ISL Light	win64	4.4.1734.24	2017-10-12
Locale	win64	4.4.1721.9	2017-05-26
Network Time	win64	4.4.1721.9	2017-05-26
System Monitor	win64	4.4.1721.9	2017-05-26

Programs (プログラム)			
※Windows OSが64bit版の場合も、Platformは「win32」になります			
※OSがMac製品の場合、Platformは「mac」または「macppc」になります			
Name	Platform	Version	Release date
ISL Tester	win32	4.1.0	2015-02-25
	mac	4.1.0	2015-02-25
ISL AlwaysOn	win32	4.4.1746.22	2017-12-21
	mac	4.4.1746.22	2017-12-21
	win32	2.2.10	2017-08-14
	mac	2.2.10	2017-08-14
ISL AlwaysOn Connect	win32	2.2.0	2014-09-30
	mac	2.2.0	2014-09-30
ISL Groop	win32	4.3.0	2017-05-30

ISL Light	win32	4. 4. 1721. 14	2017-06-13
	mac	4. 4. 1721. 13	2017-06-05
ISL Light Client	win32	4. 4. 1737. 24	2018-04-05
	mac	4. 4. 1721. 10	2017-06-01
ISL Light Desk	win32	4. 4. 1737. 24	2018-04-05
	mac	3. 3. 5	2014-07-23
ISL Network Start	win32	4. 4. 1806. 11	2018-03-02
	Mac	4. 4. 1806. 11	2018-03-02
ISL Player	win32	4. 4. 1728. 7	2017-08-11
	mac	4. 4. 1728. 7	2017-08-11
ISL WebStart	win32	1. 0. 2	2012-11-06

Plugins (プラグイン)			
※Windows OS が 64bit 版の場合も、Platform は「win32」になります			
※OS が Mac 製品の場合、Platform は「mac」または「macppc」になります			
Name	Platform(Flavor)	Version	Release date
Audio	win32	1. 2. 3	2010-03-02
	Win32 (NT)	1. 3. 0	2011-02-03
Desktop Control	win32	1. 2. 9	2010-04-12
	macppc	1. 3. 0	2011-06-24
	mac	1. 3. 3	2013-08-23
	Win32 (NT)	4. 4. 1737. 23	2018-03-06
File Transfer	Win32	1. 4. 1	2013-09-26
	macppc	1. 3. 0	2011-06-24
	mac	1. 3. 2	2012-10-04
Remote Printing	win32 (NT)	1. 4. 1	2016-05-18
Recording	win32	1. 4. 0	2012-11-06
Video	win32	4. 1. 2	2017-01-12
Windows 95 pack	win32	1. 2. 0	2008-11-24

Actions (常駐接続のアクション実行に必要なプログラム)			
Name	Platform	Version	Release date
execute	win32	1.0.0	2014-10-23
password	win32	1.0.0	2011-11-10
	mac	1.0.0	2012-03-23
shutdown	win32	1.1.0	2012-05-08
	mac	1.1.0	2012-03-23
sysinfo	win32	1.0.0	2011-11-10
	mac	1.0.0	2012-03-23
wakeonlan	win32	1.0.0	2011-11-10
	mac	1.0.0	2012-03-22

5 ISL Conference Proxy の復旧

バックアップしたインストールフォルダを使って、ISL Conference Proxy の復旧を行う手順を説明します。

注意事項

ユーザーの情報や履歴情報などのデータは、最後にバックアップした時点までしか復旧することができません。

1. ISL Conference Proxy のサービスを停止します。
Windows のスタートメニューから[コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス]を選択して、[ISL Conference Proxy]を停止します。
2. ISL Conference Proxy のアンインストールを行います。
[コントロールパネル]から[プログラムの追加と削除]もしくは[プログラムと機能]を開き、[ISL Conference Proxy (バージョン名)]を選択して、[アンインストール (削除)]をクリックします。
3. ISL Conference Proxy のインストールフォルダを削除します。インストールフォルダの初期値は以下の通りです。

C:¥Program Files¥ISL Conference Proxy

※64bitOS で、32bit 用プログラムを使用している場合のインストールフォルダは

C:¥Program Files (x86)¥ISL Conference Proxy」となります。

4. バックアップしていたインストールフォルダを以下のフォルダに戻します。

C:¥ Program Files¥ISL Conference Proxy

※ISL Conference Proxy 3.4.0 を 64bitOS にインストールする場合は以下のフォルダに戻します。

C:¥Program Files (x86)¥ISL Conference Proxy

5. サーバーの管理者権限を持つ Windows アカウントで ISL Conference Proxy のインストーラーを実行します。OS の bit 数に応じたインストーラーを使用します。
6. 表示されるインストールウィザードに従って、インストールを進めます。
インストール完了後、ブラウザ上で ISL Conference Proxy の管理画面 (ISL Conference Proxy administration) が自動的に開きます。
7. 管理画面にログインできることを確認します。(初期値の [Username] は「admin」、[Password] は「asd」です。移行前に変更している場合は、変更が引き継がれます)
8. 製品が利用できることを確認します。

6 ISL Conference Proxy のアンインストール

ISL Conference Proxy のアンインストールを行う際は、下記の手順に従ってください。

1. [コントロール パネル]から[プログラムの追加と削除]もしくは[プログラムと機能]を開き、[ISL Conference Proxy]を選択して、[削除]をクリックします。
2. ハードディスク上のすべてのデータファイルを削除する場合は、インストールフォルダを削除します。インストールフォルダの初期値は以下の通りです。

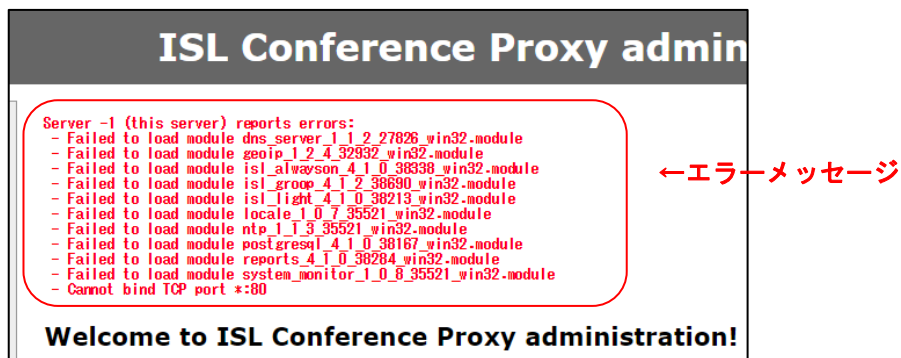
「C:¥Program Files¥ISL Conference Proxy」

※64bitOS で、32bit 用プログラムを使用している場合のインストールフォルダは「C:¥Program Files (x86)¥ISL Conference Proxy」となります。

※ ISL Conference Proxy を再度インストールする際は、インストールフォルダー内のすべてのファイルを削除した後に、インストールを行ってください

7 ISL Conference Proxy のエラーメッセージ

32bit 用のプログラムを移行またはアップグレードした後、管理画面に「Failed to load module *****_win32.module」といったエラーが表示される場合があります。エラーは表示されていても動作上全く問題ありませんが、これらのエラーは以下の手順で解消できます。



1. ISL Conference Proxy のサービスを停止します。
Windows のスタートメニューから [コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス] を選択して、[ISL Conference Proxy] を停止します。
[ISL Conference Proxy] 以外のサービスは停止しないでください。
2. 「C:\Program Files\ISL Conference Proxy\modules」内の「*****.win32.module」と「*****.win32.module.version」という名前のファイルを全て削除します。
(「*****」内には、エラーメッセージ内に表示されているモジュール名が入ります)
3. [ISL Conference Proxy] のサービスを開始します。
4. ISL Conference Proxy の管理画面にログインして、エラーが表示されないことを確認します。

製品の詳しい情報につきましては、以下の ISL Online ウェブページをご参照ください。

<http://www.islonline.jp/>

ISL Online 開発元

XLAB d.o.o.

Pot za Brdom 100

SI-1000 Ljubljana

Slovenia, EU



URL: <http://www.xlab.si/>

ISL Online 国内総販売代理店

株式会社オーシャンブリッジ

〒150-0043

東京都渋谷区道玄坂 1-20-8

寿パークビル 7F

URL: <http://www.oceanbridge.jp/>



OceanBridge

つかえるITを、**世界から。**